Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2012.2
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.50

CONTENTS

- ジョナサン・クラインの作品を見て
- ポートフォリオ額装のすすめ
- 【ゾーンシステム研究会展覧会】
  （第 16 回写真展での中島代表挨拶文）
- ゾーンシステム研究会第16回写真展全作品
- ゾーンシステム研究会第16回写真展スナップ
- ゾーンシステム研究会第16回写真展作品データ
- ゾーンシステム研究会第16回写真展メディア掲載
- ゾーンシステム研究会定例会日誌
- インフォメーション

ジョナサン・クラインの作品を見て

中島秀雄

渋谷東急文化村の裏側一帯は、瀟洒な住宅やマンションが建ち並ぶ高級住宅地になっている。渋谷から車で帰宅するとき私は、時々抜け道として利用しているが、その一角にプライベートなギャラリーが数年前にできた。かつて研究会の講師としてプラチナプリントの講義を受けたことのある写真家・平竜二さんの自宅を兼ねたギャラリーだ。平さんは、ニューヨークに住む栗田紘一郎氏と親しく、氏の作品展やコンテンポラリーな作品展が開かれたときに何度か訪ねたことがある。

今回、アメリカの写真家ジョナサン・クラインの The Threshold of Photographic Light Sensitivity「写真感光受性の出発点」と称したソルトプリント展が開かれ、そのオープニングに出向いた。

周囲に 1 インチの余白を残した 16x20 インチサイズのプリントには、わずかな歪みをそのままに壁にピンで留められていた。プリントから得られる情報と言えば、グレーの濃淡変化が見られるくらいで、いわゆる写真としての意味は読み取れなかった。20 点ほどの作品すべてが全面グレートーンのプリントになっている。しかし、わずかなアンバーの色味とグレーの濃淡変化を見て行くと私の意識は、わりと自然に写真の黎明期に行きついた。

ジョナサン・クラインのソルトプリントには、ある種の仕掛けが含まれたプリントの様に見えてくる。

ジョナサン・クラインは、サンフランシスコアート インスティテュートを卒業し、1986 年よりニューヨーク大学、1998 年、ベニングトン大学、ICP(国際写真センター)で教鞭をとっている。写真家として 15 年の間は、19 世紀の初期の写真手法にずっと興味を持ち、関わりあってきたようで、集中的に研究してきたのはカロタイプとソルトプリントだと言っていた。

ところで、19 世紀の初期、写真の誕生までにはどんな技法が試みられていたのだろうか。1827 年頃、フランスのニエプスは印刷術を研究する傍らおぼろげな画像を写し取り、ニエプスから情報を得たダゲールは、銀板にヨードの蒸気を当て撮影を繰り返していた。一方、1840 年頃、イギリスのタルボットは、暗箱を使って画像を写し撮ろうと紙ネガを使っていた。科学と化学が結合し、まさに写真という発芽の垣間見える時代だった。

タルボットは、紙に硝酸銀と沃化かりの溶液を浸み込ませ、これを硝酸銀と没食子酸の混合液で処理して乾燥し、撮影から紙ネガを処理しそこからポジを作る技法を発明した。それをカロタイプと呼んでいたが、その後、タルボタイプと改称している。

ソルトプリントは、塩化銀を感光性物質とし、紙を支持体とする感光性材料で写真印画紙の原点といえる。紙を食塩水中に浸して乾燥したあと、これを硝酸銀液に浸して、紙の繊維中に塩化銀を生成する。露光によって紙の上に銀の画像がつくられ、そのあと、食塩又は沃化カリの溶液で定着する。

今回、ジョナサン・クラインの作品制作はこうだ、まず、ソルトプリントをつくるための感光紙を自ら作るところから始まる。おそらく上記のような方法で作ったに違いない。硝酸銀は容易に手に入るとも言っていた。そして、十分乾燥して出来た感光紙を自室内の壁の上に直接貼り付け、日中部屋の中に差し込む柔らかな光のかすかな変化を確認しながら 1 時間ほど記録する。タルボッ

トのようにカメラオブスキューラ(暗箱)は使わずに、直接、光の変化を捉えたものだ。
ジョナサン・クラインが日常生活の中に現れる柔らかな光に興味を持つきっかけは谷崎潤一郎の作品”陰翳礼讃”だという。しかし、具体的なことには踏み込まなかった。

日本古来の生活様式の中に自然に取り入れられている光に注目した谷崎潤一郎の代表作だ。深い藁葺屋根の際から差し込んだ光は、和紙が張られた障子を介して拡散し、柔らかな光となって奥座敷の茶器や掛け軸にふりそそぐ。そこに現れる陰翳に日本古来の光に対する美意識に強い興味を感じていたのかもしれない。展覧会の終了後、彼は、わざわざ東北にまで出かけて撮影すると言っていたし、そのためのソルトペーパーを用意していた。

タルボットの撮影手法にしろ、我々の写真撮影にしろ、光の物理現象や化学反応を応用し、目前の光を画像として捉えるとことにある。現在、それは誰にでも出来るようになっている。

写真の発明以前から人間は、目前の光景を留めたいという欲望を持っていた。紀元前5世紀のアリストテレスは、小さな穴から入った光が反対側の壁に像となって写ることに強い興味を示し、「我々は、やがてこの像を永久に留めることが出来るようになる」といっている。しかし、そのためには、光の原理を克服するためのカメラ、レンズ、シャッター、絞りが必要になり、ピンホール撮影でさえ暗箱が必要なことを学んできた。ある程度の科学や化学の知識を必要とし、また、メカニカルな部分に依存することになり、様々な制約の中で操作し進めることになる。感光材料としてのフィルムや印画紙は、市販のものを買い、手作りするようなことはしない。

しかし、カメラを使わず、手作りの感光性材料に直接、光の痕跡を写し取ろうとする彼の行為にはどんな意味があるのか。

彼は、メカニカルな部分に依存することや、様々な制約からフリーになりたいと言っている。そこには、現在の写真が高度の電子テクノロジーによって益々文明の利器に支配され、彼が望む光を直視し、その変化を直接捉えることから益々離れてしまう苛立ちのようにも感じる。ソルトプリント技法は、カメラに依存しがちな写真術をそこから解き放し、写真術の厳格な手順の、焦点、絞り、シャッターによる適正露出をも必要としない。確かに、彼の作品をしばらく眺めていると、手作りのペーパに降りそそぐ光の自由にまかせればよく、あなたが気付くことのなかった日常のなにげない光に立ち向かうこともできるようになると言っているように見えてくる。
日常生活にありふれる様々な光の変化は、見ているようで気が付かないことが多い。朝、カーテンを開けた時に入り込む光が天井に細い光となって写りこみ、一度写真に撮ったことがあるが、これを何年か続けることで表現に到達できるのかもしれない。二度と同じ光に立ち会えない瞬間の断片を記録し続ける強い意志は、感光紙を自ら作るためのゆるく流れる時間の中に自らを置かなければかなわないように私には感じる。

最後の説明で彼は、紙の上に降り注ぐ光の波のような変化を捉えたいといった。

ジョナサン・クラインの作品は、光に運ばれた粒子が彼の作った感光紙に降り注ぎ、光の粒子と感光紙の銀粒子とが結合した光銀事件だったといえるのかもしれない。

ポートフォリオ額装のすすめ

荒井崇

昨年完成したポートフォリオⅠは、おかげさまで、現在のところ３セットの販売と、以下３ヶ所への寄贈を行うことができました。

・日大芸術学部写真学科
・工芸大 写大ギャラリー
・清里フォトミュージアム

また上記寄贈先へは、「作者略歴・会報・写真展DM・英文による挨拶文」を追加寄贈する予定です。（研究会の活動記録として保管されます。）

大変な苦労の末、完成したポートフォリオです。参加した方は、額装して部屋に飾ってみてはいかがでしょうか。

昨年、私は全ての作品を額装し、自宅ギャラリー（ギャラリー宙）に展示してみました。

手軽に展示する方法としては、２～３個のフレームを部屋に設置し、中の作品を時々入れ替えてみるのも一つの手です。

次ページの表に、私が額装した際のマット窓枠寸法を記載しました。
額装される方は、ぜひ参考にしてみてください。
●窓枠寸法は、基本全周余白 6mm 前後とし、サインの大きさにより、一部の作品は、下の余白のみ大きめにしました。
（サインの大きさにばらつきがありますので、この寸法でよいか、あらかじめ再確認願います。）
●8x10 コンタクトプリント（赤羽さん作品）は余白が取れないので、マット窓枠をイメージより小さくしました。
●額サイズは皆さんの好みによりますが、今回は 16x20 インチとし、作品が横位置であっても縦位置であっても、額は縦で配置しました。
（壁にかける際、収まりが良いので）

昨年 12 月 10 日（土）、自宅ギャラリーで研究会例会を開催させていただき、皆さんに見ていただくことができました。（その節は、大変不便な住宅街までお越しいただきありがとうございました。）

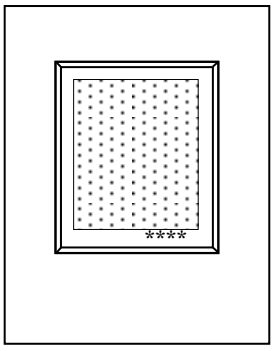
ポートフォリオ作品は、その後も自宅ギャラリーに展示していますが、みなさんの作品がとてもすばらしいので、私自身、大変楽しませてもらっています。

また、訪問客に見せると大変好評で、口々に「すばらしい」と言ってくれています。

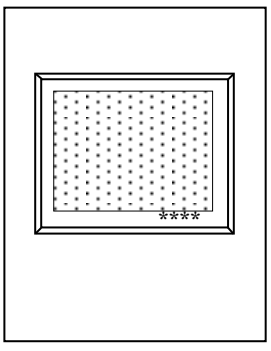
今回ポートフォリオに参加できなかった方におきましても、次回機会がありましたら、ぜひ参加していただきたいと思います。

ポートフォリオⅠ マット窓枠寸法例

no.	作家名	題名	ｲﾒｰｼﾞ タテ/ヨコ	サイズ（mm）			
				ｲﾒｰｼﾞｻｲｽﾞ		ﾏｯﾄ窓寸法	
				ヨコ	タテ	ヨコ	タテ
1	中島秀雄	Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005	横	222	173	234	186
2	北野龍一	The lost pier	横	221	94	233	107
3	赤羽章司	Leaf	横	245	195	235	185
4	橘田功	乱流	横	220	171	232	184
5	川北弘	雲湧く	正方	174	172	186	185
6	内田順	Beach	縦	172	224	184	237
7	荒井崇	Cabbage	横	219	172	231	185
8	小菅秀一	海景	横	223	173	235	187
9	藤森利昭	安濃ダム	横	218	169	230	182
10	葛城忠彦	レインコートのスイス衛兵	正方	172	181	184	195
11	金子正道	春待つ川畔	正方	173	173	185	186
12	浜野次郎	青林檎	縦	172	225	184	237
13	古谷津純一	a symphony	横	217	172	229	185
14	岡崎克之	レジャー	横	222	173	234	186
15	石井政吉	静寂の中の激流	横	224	170	236	183
16	鈴木武志	凍てるモンステラ	正方	172	172	184	186
17	越後久雄	High Tide	横	223	174	235	187
18	藤田昇	horizon	横	231	172	241	184
19	畑文夫	Lighthouse, Pigeon Point, CA	縦	172	222	184	235



縦位置



横位置

＊タテ位置作品・ヨコ位置作品、共にフレームは縦使いとしてみました。

【ゾーンシステム研究会展覧会】

この度、ゾーンシステム研究会は、第 16 回写真展・光への探求を開催いたします。

研究会を設立して 17 年、この間の電子テクノロジーの発展は、写真を巡る様々な環境に大きな変化をもたらしました。画像の処理や通信機能の利便性はもとより、科学と芸術の切り離せない関係をも著わしたと言えます。

しかし、写真環境の変化は、表現にも少なからぬ影響となって現れ、写真は、いくらか混迷の時と言えるかもしれません。写真をより軽いものとして扱う表現が受けている。過去の写真をリメイクして再び展示する傾向や、古典技法に思いを深める人達も増え実践している。執拗なまでに新たなテクノロジーに固執している。そして、遂にカメラ、レンズ、絞り、シャッターといったいわゆるカメラを一切使用しない表現スタイルも現れています。

研究会は、当初から銀塩モノクローム・ファインプリントに拘り続けてきました。現実の色の省略による抽象の世界、通常の世界とは違う世界に、私たちは引き付けられてきたと言えます。また、時として、ファインプリントとはどういうこと、と問われることもありました。

アメリカの写真家アンセル・アダムスは、「きわめて美しい被写体を完璧なプリントで見せていく」と言っています。

私達は、撮ろうとする美しい被写体を心の奥深くで感じとり、それをプリント表現していく。目前の被写体に対して風景であろうと静物であろうと自らの感受性をそのまま表し、写真表現する以上そのメディアを十分研究し、愛着を持ち、撮影から作品制作のすべてを通して明晰に表現したいと活動して来ました。

そのことを実践する技法として、ゾーンシステムを学んで来ました。

今日、写真表現の様々な技法が再び立ち現れる中で、なめらかな印画紙を最終表現の素材とし得ることは幸運なことと思っています。そのことを研究会は、ポートフォリオに具現化しました。

研究会のこれまでの証として、また、アートとして個人がプリントを保存する方法としても有効だという思いから制作に至りました。そして、今回、東日本の震災を目の当たりにして、改めて写真という物として残しておくことの重要性に気づいたことも事実です。

写真は、自然から、そして、壮大な宇宙からもたらされた物体の無限の変化を主題とし、個人の感受性を通して反映するアートと言えます。

レンズを通し、暗箱のピントグラスに写る凝縮された美しい画像に、私たちはこれからも興味を失うことはないでしょう。

ゾーンシステム研究会代表　中島秀雄

（ゾーンシステム研究会 16 回写真展での中島代表挨拶文）

ゾーンシステム研究会第16回写真展［光への探求］全作品

ギャラリー「コスモス」［ 2011年11月8日（火）～11月20日（日）］

Limestone

中島 秀雄

Hangar

中島 秀雄

Leaves

中島 秀雄

Nude

中島 秀雄

氷流

酒巻 澄江

昔日の光

酒巻 澄江

Mr.Fujita

松本 ひさ子

Efes（エフェス）

松本 ひさ子

Goreme（ギョレメ）

松本 ひさ子

白い家

藤田 昇

Tetrapod

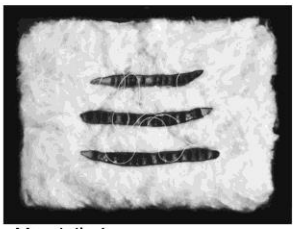
藤田 昇

Feather

藤田 昇

Leaf
荒井 崇

Snowball
荒井 崇



Mendel's Law
川北 弘

8月のパプリカは妖しい
金子 正道

五月雨下る
金子 正道

Seaside Stone
川北 弘

冬館
北野 龍一

柘榴
北野 龍一

Metasequoia（メタセコイア）
穴澤 昭

Lion's Tail（Agave attenuata）
臼井 健司

卵－レードル－鏡
浜野 次郎

渦まくかたち
浜野 次郎

Towers

畑 文夫

飾り窓

岡崎 克之

若草の道

岡崎 克之

大江天主堂

岸 芳明

a morning blow（朝焼）

古谷津 純一

a shore reef（岩礁）

古谷津 純一

日橋川

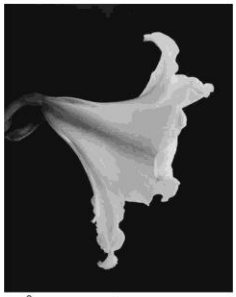
葛城 忠彦

女優

葛城 忠彦

残雪よりも冷たき巨壁岩

石井 政吉



プロフィール

橘田 功

雪景

橘田 功

薫風

橘田 功

森の貴公子

皆川 賢

ぶなの木

越後 久雄

モンスター

越後 久雄

Tioga Pass, Sierra Nevada

田中英司（遺作）

Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005

（ポートフォリオ）

中島 秀雄

海景

（ポートフォリオ）

小菅 秀一

Cabbage

（ポートフォリオ）

荒井 崇

レインコートのスイス衛兵

（ポートフォリオ）

葛城 忠彦

ゾーンシステム研究会第16回写真展スナップ

ゾーンシステム研究会 第16回写真展 ファインプリント～光への探求　2011年11月8日～11月20日　ギャラリー コスモス

	タイトル	作者	撮影地		撮影年月	フィルム	フォーマット
1	Limestone	中島 秀雄	新潟県	糸魚川	2011年6月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
2	a morning blow （朝焼）	古谷津 純一	茨城県	那珂湊	2010年3月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10
3	Tetrapod	藤田 昇	新潟県		2011年9月	FUJI ACROS 100	8x10
4	Seaside Stone	川北 弘	静岡県	城ヶ崎	2010年10月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x6
5	Metasequoia （メタセコイア）	穴澤 昭	神奈川県	藤沢市 打戻	2011年2月	FUJI ACROS 100	6x6
6	森の貴公子	皆川 賢	長野県	佐久穂町　八千穂高原	2011年10月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
7	残雪よりも冷たき巨壁岩	石井 政吉	東京都	御嶽山	2011年3月	FUJI ACROS 100	4x5
8	ぶなの木	越後 久雄	山形県	山形蔵王坊平高原	2011年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
9	日橋川	葛城 忠彦	福島県	猪苗代町	2011年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
10	雪景	橘田 功	長野県	小谷村	2011年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
11	氷流	酒巻 澄江	福島県	滝川渓谷	2011年2月	FUJI ACROS 100	6x12
12	モンスター	越後 久雄	山形県	山形蔵王	2011年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
13	大江天主堂	岸 芳明	熊本県	天草市	2010年10月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x7
14	白い家	藤田 昇	千葉県		2011年1月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
15	冬館	北野 龍一	福島県	猪苗代湖	2011年2月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
16	昔日の光	酒巻 澄江	福島県	天鏡閣	2011年2月	FUJI ACROS 100	4x5
17	飾り窓	岡崎 克之	東京都	丸の内 明治生命館	2011年3月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
18	柘榴	北野 龍一	東京都	自宅	2011年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
19	８月のパプリカは妖しい	金子 正道	千葉県		2011年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
20	渦まくかたち	浜野 次郎	東京都	自宅	2011年6月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
21	Feather	藤田 昇	新潟県		2011年7月	KODAK TMX (T-MAX 100)	4x5
22	Mendel's Law	川北 弘	茨城県	自宅	2011年9月	KODAK 320TXP (TRI-X)	8x10
23	Snowball	荒井 崇	神奈川県	自宅	2011年8月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
24	Leaves	中島 秀雄	神奈川県	自宅	2011年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
25	プロフィール	橘田 功	東京都	自宅	2011年5月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
26	卵 - レードル - 鏡	浜野 次郎	東京都	自宅	2011年6月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
27	Hangar	中島 秀雄	東京都	調布飛行場	2011年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
28	Towers	畑 文夫	東京都	渋谷区　山手通り	2011年1月	T-MAX 400 (EI-320,Orange filter)	4x5
29	Mr.Fujita	松本 ひさ子	神奈川県	横浜市	2011年7月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
30	女優	葛城 忠彦	東京都	神宮	2010年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
31	Nude	中島 秀雄		スタジオ	1997年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
32	Goreme（ギョレメ）	松本 ひさ子	トルコ		2011年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
33	Efes（エフェス）	松本 ひさ子	トルコ		2011年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
34	Leaf	荒井 崇	静岡県	クレマチスの丘	2011年5月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
35	Lion's Tail (Agave attenuata)	臼井 健司	静岡県	伊東市 シャボテン公園	2010年10月	KODAK TMX (T-MAX 100)	6x6
36	薫風	橘田 功	ニューメキシコ		2009年6月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
37	若草の道	岡崎 克之	東京都	葛飾区 水元公園	2011年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
38	五月雨下る	金子 正道	栃木県	日光	2011年7月	KODAK TMY (T-MAX 400)	4x5
39	a shore reef （岩礁）	古谷津 純一	東京都	伊豆大島	2010年9月	KODAK TMY (T-MAX 400)	8x10
40	Tioga Pass, Sierra Nevada	田中英司 （遺作）	カリフォルニア	シエラ・ネバダ	2002年7月		
41	Cabbage （ポートフォリオ）	荒井 崇	神奈川県	横浜市 市民活動支援センター	2006年8月	KODAK 320TXP (TRI-X)	4x5
42	Boone & Wright Store, Bodie, Calif., 2005 （ポートフォリオ）	中島 秀雄	カリフォルニア	ボディ	2002年5月	POLAROID TYPE 55	4x5
43	レインコートのスイス衛兵 （ポートフォリオ）	葛城 忠彦	ヴァチカン		2010年8月	KODAK TMY (T-MAX 400)	6x6
44	海景 （ポートフォリオ）	小菅 秀一	茨城県	高萩市 ささきの浜	2009年4月	KODAK TMX (T-MAX 100)	4x5

レンズ	絞り	シャッタスピード	キーゾーン	シャドー	ハイライト	印画紙
210mm	f45	1/2秒	白い石（Ⅷ）	遠景の山（Ⅲ）	白い石（Ⅷ）	Rembrant V G2
150mm	f45	1秒	手前の岩（Ⅲ）	手前の岩（Ⅲ）	太陽	Rembrant V G2
210mm	f64	1秒	ブロック肌（Ⅴ）	ブロック影（Ⅲ）	貝殻（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
50mm	f22	60秒	岩（Ⅴ）	岩かげ（Ⅱ）	波（Ⅶ）	SEAGULL VC-FBⅡ
250mm	f22	1/8秒	植え込み（Ⅱ－Ⅲ）	中央の幹（Ⅱ）	雲の明部（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
150mm	f45 1/3	1/8秒	白樺の幹（Ⅶ～Ⅷ）	森の奥（Ⅲ）	白樺の幹（Ⅶ～Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
150mm	f45 1/3	8秒	岩の中央（Ⅳ）	岩の下（Ⅲ）	残雪（Ⅷ）	Rembrant V G2
240mm	f45	1/30秒	－	木のシャドー（Ⅲ - Ⅳ）	雪のハイライト（Ⅶ-Ⅷ）	Rembrant V G2
150mm	f22	1/4秒	－	川（Ⅴ）	雪（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
210mm	f64	1/15秒	影の雪面（Ⅵ）	雪の無い開口部（Ⅲ）	陽の差し込んだ雪面（Ⅶ）	SEAGULL VC-FBⅡ
120mm	f22	1/2秒	氷塊（Ⅶ）	つらら（Ⅳ-Ⅴ）	氷塊中央（Ⅷ）	Rembrant V G2
50mm	f22	1/60秒	－	－	雪のハイライト（Ⅶ-Ⅸ）	Rembrant V G2
75mm	f22	1/15秒	教会の屋根（Ⅳ）	青空（Ⅱ）	教会の壁（Ⅸ）	Rembrant V G2
210mm	f64	1/4秒	壁（Ⅲ）	垣根（Ⅲ）	白い壁（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
120mm	f 45 1/3	1/15秒	板壁（Ⅴ）	森（Ⅲ）	雪（Ⅷ）	Rembrant V G2
120mm	f32	8秒	窓 & カーテン（Ⅵ-Ⅶ）	壁（Ⅱ-Ⅲ）	窓（Ⅶ）	ADOX
80mm	f16	1/4秒	窓枠（Ⅲ-Ⅳ）	全体（Ⅲ-Ⅳ）	窓外（Ⅷ-Ⅹ）	SEAGULL VC-FBⅡ
180mm	f 45 2/3	4秒	実（Ⅳ）	影（Ⅲ）	薄皮（Ⅷ）	Rembrant V G2
135mm	f22	8秒	パプリカ影（Ⅴ）	バック布（Ⅰ）	パプリカ右側（Ⅶ）	SEAGULL VC-FBⅡ
150mm	f45	6秒	木目（Ⅲ - Ⅳ）	草の影（Ⅰ - Ⅱ）	背景（Ⅶ-Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
210mm	f64	2秒	羽根中央部（Ⅵ）	バック（Ⅱ）	羽根の芯（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
210mm	f64	3.5秒	beans部分（Ⅳ）	beans部分（Ⅲ）	cotton（Ⅶ）	SEAGULL VC-FBⅡ
210mm	f32	80秒	花びら（Ⅶ）	バック布（Ｏ）	花びら（Ⅶ）	Rembrant V G2
150mm	f32	1秒	葉（Ⅵ-Ⅶ）	背景（Ⅱ）	葉（Ⅵ-Ⅶ）	Rembrant V G2
240mm	f64	6秒	花弁の白（Ⅶ）	バック（Ⅱ）	花弁の先端（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
180mm	f45	10秒	卵（Ⅵ）	金属面（Ⅱ）	金属面（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
150mm	f32	2秒	翼（Ⅵ）	格納庫・影（Ⅲ）	機体の白（Ⅶ-Ⅷ）	Rembrant V G2
210mm	f45 1/2	1/15秒	コンクリート（Ⅶ）	－	コンクリート（Ⅶ）	Rembrant V G2
210mm	f45	1/8秒	顔（Ⅴ）	ギターのベルト（Ⅱ）	シャツ（Ⅷ）	Rembrant V G2
150mm	f22	1/4秒	－	木陰（Ⅲ）	顔（Ⅷ）	SEAGULL VC-FBⅡ
80mm	f16	1/8秒	肌（Ⅵ-Ⅶ）	人物・影（Ⅱ-Ⅲ）	肌（Ⅵ-Ⅶ）	Rembrant V G2
80mm	f16 1/2	1/125秒	洞窟（Ⅳ）	左側の遠景と洞窟の影（Ⅱ）	雲の輝き（Ⅷ）	Rembrant V G2
80mm	f22	1/60秒	石の模様の明るい部分（Ⅶ）	左右の隅（Ⅱ）	逆行で明るい渕（Ⅷ）	Rembrant V G2
210mm	f45	4秒	葉のハイライト（Ⅶ-Ⅷ）	影の葉（Ⅲ）	葉のハイライト（Ⅶ-Ⅷ）	Rembrant V G2
80mm	f11	1/8秒	葉（Ⅳ）	葉の陰（Ⅳ）	中央の突起先端(Ⅶ)	SEAGULL VC-FBⅡ
150mm	f32	1/15秒	植物の葉の部分（Ⅴ）	中央の樹（Ⅳ）	植物の穂先（Ⅶ）	SEAGULL VC-FBⅡ
210mm	f45	1/8秒	道（Ⅴ）	草の影（Ⅲ - Ⅳ）	草の先、道（Ⅴ-Ⅵ）	SEAGULL VC-FBⅡ
300mm	f22	1秒	樹木葉（Ⅴ）	岩（Ⅲ）	滝（Ⅶ-Ⅷ）	Rembrant V G2
360mm	f45 2/3	1秒	白い波（Ⅶ-Ⅷ）	岩礁（Ⅱ-Ⅲ）	白い波（Ⅶ-Ⅷ）	Rembrant V G2
210mm	f32	10秒	キャベツハイライト（Ⅶ）	バック布（Ⅱ）	キャベツハイライト（Ⅶ）	Rembrant V G2
125mm	f45	6秒	手前の樽（Ⅴ）	奥の机（Ⅲ）	白い箱（Ⅶ）	SEAGULL GF-2
80mm	f16	1/30秒	レインコート（Ⅳ）	帽子 （Ⅲ）	建物(Ⅶ)	SEAGULL VC-FBⅡ
90mm	f45	1/2秒	砂浜（Ⅳ）	下の岩（Ⅱ - Ⅲ）	空（Ⅷ）	Kentmere VC

ゾーンシステム研究会第16回写真展メディア掲載

「第16回写真展」
ゾーンシステム研究会

11月8～20日　東京（目黒）：ギャラリーコスモス
✆03-3495-4218

ひとこと■「大型カメラによるモノクローム銀塩写真制作にこだわり続けてきました。今回は、作者自身が仕上げたファインプリントを展示するほか、研究会初、19人分のオリジナル作品集『ポートフォリオⅠ』も併せて展示します」

〝Limestone〟2011
©中島秀雄

アサヒカメラ（2011年11月号掲載）

第16回ゾーンシステム研究会写真展

11月8日（火）～20日（日）

©越後久雄「モンスター」

当会では、大判カメラによるモノクローム銀塩写真制作に長年こだわり続けてきました。各々のテーマに基づき、自身によるプリントを基本に制作しています。
東京▶ギャラリーコスモス〈目黒〉／11:00～18:30、最終日は17:00まで／休館日:月曜日／☎03・3495・4218

フォトコン（2011年11月号掲載）

写真展 自薦 いろいろ 他薦

※ゾーンシステム研究会第16回写真展「光への探求」11月8日～20日にギャラリーコスモスで開催。作者自身によって仕上げられたファインプリントを約40点展示し、昨年から取り組んできた研究会最初のオリジナル作品集「ポートフォリオⅠ」も併せて展示する。

フォトステージ（2011年11月号掲載）

ｿﾞｰﾝｼｽﾃﾑ研究会定例会日誌

2011 年 9 月 10 日（土）

横浜市民活動支援センター研修室

・出席者：中島代表、岸、松本、酒巻、穴澤、石井、金子、荒井、岡崎、川北、畑、浜野、北野

・作品持参者：岸、松本、酒巻、穴澤、石井、金子、荒井、岡崎、川北、畑

■中島代表より

●写真展について

・参加人数、作品のクオリティともに不足している。すでに出品作を決めた人も、さらに作品を創ってほしい。17～18 点ではコスモスの壁が埋まらない。40 点は展示したい。

・作品創りのために、撮影会を至急前倒しに実行する。

（注：9 月 23～24 日で企画したが、諸般の事情で中止となった。）

●暗室ワークの反省

・工芸大では PQ 現像液を使用したため、黒の締りが良い。立川氏の会社（レイテック）で販売している。

・コンタクトプリントを作る習慣をつけること。

■写真展実行委員会より（荒井実行委員長）

●プリント・額装チェック

・10/8 例会、11/5 例会で最終プリントチェック。

・10/8 例会、11/5 例会で額装チェック。

額装初めての方は、できるだけ 10/8 例会で額装チェックを受けてもらう。

・出品作品未定の方は、10/8 例会前に中島代表に作品を送っていただき早めにチェックしてもらうこと。（日程が厳しいため）

●受付当番

・受付当番は 10/8 例会で決定。

●販売方法管理

・販売リスト等で管理。管理方法は別途決める。

●キャビネ販売

・販売点数、作品内容は自由。ただし、11/5 例会でチェックを受けること。

・サインは必ず記入。エディションの記入は自由。

・会場販売方法：1 枚のみファイル又はポストカード展示ケースに入れて no. 記載。販売プリントは受付に置き no. を指定で販売。

・販売リストを作って管理。

・販売希望者は、盗難・紛失があった場合、受付の方や管理者の責任は問わないことを了解の上参加してもらう。

・キャビネは１枚１枚ポリ袋に入れて提出してもらう。

●搬入・搬出作業関連

・発送：11/5 例会後シビックセンターからヤマトで発送→11/6（日）11:00～18:00 着

・搬出：11/20（日）来られない会員にはヤマトで発送。当日来られない会員は、宛先を記入した着払い伝票（ヤマト指定）を提出のこと。

●フラットニング（額装指導）［中島先生宅］

・9 月末の予定は取りやめて 10 月末とする。（9 月は作品上がってないと思われる。）

・10/8 の例会にて希望者があれば実施。

・額装材料は参加者が自分で用意すること。

●ＤＭ

・10/8 例会でシール貼りを行う。

●レクチャー

・ペンディングとする。

理由：人数が集まるか疑問。中島代表が新山さんとなかなか連絡取れず。良い作品がなかなか集まらないので、中島代表が自信を持ってレクチャー

をしにくい。

●会報

・中島代表が多忙のため、会報記事投稿困難で、７月発行は見送った。次回発行は 10 月。よって今年は年２回発行とする。

2011 年10 月 8 日（土）

文京区シビックセンター会議室

・出席者：中島代表、古谷津、藤田、穴澤、越後、荒井、松本、北野、岸、岡崎、酒巻、金子、畑、鶴見

・作品持参者：古谷津、藤田、穴澤、越後、荒井、松本、北野、岸、岡崎、酒巻、金子、畑

■中島代表より

・写真展作品の質、量とも心配だ。人物や雄大な風景が不足している。今からでもチャレンジしてほしい。

・写真展の会場では、「ゾーンシステムとは何か？」という質問にも答えられるようにしていただきたい。

・ポートフォリオをアサヒカメラに紹介したが、当分記事にはしてもらえそうにない。残念だ。（写真展の案内は載せてもらえるが）

■写真展実行委員会より（荒井実行委員長）

●作品未定の方・再プリントの方は、別途中島先生へ作品を送っていただき、連絡を取り合って 11/5 までに完成させること。

●配布用タイトル・データ

・10/15 までにデータを荒井まで送ること。（メール又は FAX）

・日程が迫っているので、出品するかどうかまだ決まってない作品も含めて送ってもらう。

●受付当番

・作成した受付当番の表を提示した。

・この表に記入してない方も、可能な場合はできるだけ会場に来て頂く。（特に平日の 1 人しか居ない日）

・中島先生の会場に居る日程は、後日荒井まで連絡してもらう。（時々客に聞かれるため）

●搬入

・参加者は、11/5 例会にて必ず額装した作品を持参のとこ。（必ず箱入り、サイン入）（どうしても参加できない方は、11/3（着）までに中島代表宅に送ること）

・発送：11/5 例会後、シビックセンターからヤマトで発送→11/6（日）11:00～18:00 着

・11/7 14:00～会場にて搬入展示（可能な方は出席してもらう）

●キャビネ販売

・販売点数、作品内容は自由。ただし、11 月例会でチェックを受けること。

・サインは必ず記入。エディション記入は自由。印画紙はバライタ。

・会場販売方法：1 枚のみ展示アミにクリップで止めて no.記載。販売プリントは受付に置き no.を指定で販売。
・額装サンプルも数点展示。
・販売希望者は、盗難・紛失があった場合、受付の方や管理者の責任は問わないことを了解の上参加してもらう。
・キャビネは１枚１枚ポリ袋に入れて提出してもらう。（B6 ポリ袋等）
●搬出
・搬出：11/20（日）17:00～ 参加者はできるだけ全員出席してもらう。
（どうしても来られない会員にはヤマトで発送。当日来られない会員は、宛先を記入した着払い伝票（ヤマト指定）を事前に提出のこと。）
●その他
・研究会控え用作品１点は、11 月、12 月例会、又は写真展会場などで荒井へ渡していただく。
・展示用ポートフォリオサンプルは、本物ではなく昨年のテストプリントを使用。（盗難防止）
●DM
・完成したので会員に配った。
（欠席の方には荒井から後日発送）
・会から出す DM は、今回の例会で住所シールを貼った。→発送は金子さんに御願いした。
●フラットニング（額装）[中島代表宅]
・今回の例会で参加者を募ったが、希望者が居なかったので中止。

2011 年11 月 5 日（土）
文京区シビックセンター会議室
・出席者：中島代表、鈴木、石井、葛城、川北、臼井、皆川、古谷津、穴澤、越後、倉又、、浜野、荒井、松本、北野、岸、岡崎、酒巻、金子、畑

・作品持参者：全員（写真展出品作品）

■本日の例会で、写真展出品作品（額装済）の最終確認と梱包を行い、ギャラリー宛に発送した。

■中島代表より
・写真展は皆さんの一年間の成果を展示する場なので、DM での告知を積極的に行ってほしい。
・会場では「ゾーンシステムとは何か？」という問に的確に答えられるように。

■写真展実行委員会より（荒井実行委員長）
●最終日 14 時から講評会を行うので、全員参加していただきたい。

2011年12 月 10 日（土）
ギャラリー宙
・出席者：中島代表、鈴木（武志）、石井、葛城、川北、皆川、穴澤、越後、倉又、荒井、松本、北野、岡崎、酒巻、金子、畑、石川、宮内、橘田、宮岡
・作品持参者： 北野、金子、畑

■写真展の反省など

（発言順不同）

●展示作品について

・構図が良くないとの指摘があった。勉強する機会を持ちたい。

・今回は展示の基準が甘く、レベルが低かった。初めから構図の悪いものはトリミングをしてもだめ。トリミングのできないバイテン密着で訓練すべきだ。

・出展数に個人差が多いのは問題。一人２点を維持すべき。たとえレベルが低くても展示すべき。そうしないとレベルが上がらない。

・展示作品の集め方は反省が必要。額装まで終わった作品を没にすることは避けるべき。

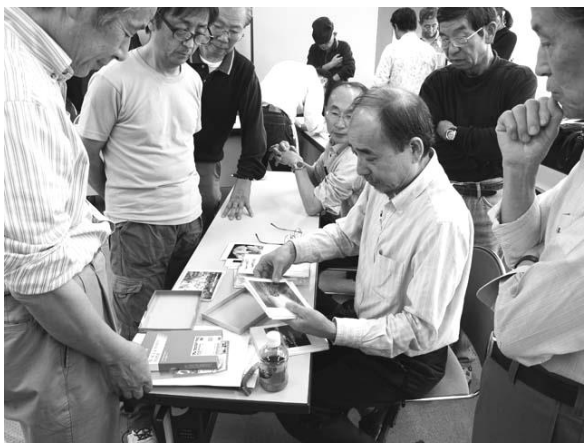
●講評のあり方について

・作品のブラッシュアップのために例会のあり方を再考する必要あり。

・一年間の例会での講評を活かしながら展示作品を仕上げるようにしていきたい。

・プリントで苦労したものはそれだけの効果が出た。講評では具体的にどうすればよいのかを指導してほしい。

・自分が良いと思う作品と先生の選択が違うことに迷った。どうすれば良いのか、良くないのかがわからないことがある。



●撮影会について

・撮影会の作品がほとんど展示されなかった。指導方法の改善も御検討いただきたい。

●年間スケジュールについて

・写真展のテーマは早急に決めないと日程に余裕がなくなる。１～２年先まで決めておきたい。

・研究会の年間行事は事前に詳細な日程を決めてほしい。さもないと参加しにくくなる。

・年間スケジュール、名簿、年間テーマ（方針）は早めに配ってほしい。

●展示方法などについて

・会場が狭いこともあってライトの映り込みが多く、見難くかった。額のアクリルは無くせないか？（無反射アクリルは高価）

・作品がもっと売れるように工夫したかった。例えば 8×10 サイズの額装見本を見せるなど。

●その他

・写真展のテーマにはもっと広がりがほしい。

・二十一世紀に残る写真を撮っていきたい。

・来場者には積極的に声をかけるようにした。写真を楽しんでいる人が多くると感じた。

■中島代表のウィンバロック複写プリント

・1970 年代に作成したウィンバロック作品の複写プリント(RC)を中島代表に見せていただいた。写大ギャラリー第 1 回展として開催されたウィンバロック写真展にて客に配ったもので、最近工芸大で見つかったという。

中島代表が細江英公先生の助手時代に、約 100 枚くらい焼いたとのこと。

当時このプリントを受け取った客は、大変驚いたそうである。

Information

【トピックス】

[暗室ワーク]

研究会恒例の暗室ワークが行われました。

・日時：2011 年 9 月 3 日（土）

・場所：工芸大中野キャンパス暗室

・参加者：中島代表、川北、越後、葛城、臼井、北野、本田、金子、畑、久保田

・昨年同様、工芸大のリニューアルされたすばらしい暗室で、大変充実したワークショップとなりました。

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

[以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。]

1．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリント又は JPEG データでお願いします。

2．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。

・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの。
（スキャナーでパソコンへ入力します。）

・パソコンの電子メール

・ウィンドウズの Word2000-2003

・text ファイル
（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2003 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に御連絡をいただくようお願いします。

3．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

［編集部］　荒井　崇

［表紙の作品］

・作者：畑文夫

・タイトル：Towers

・フィルム：KODAK T-MAX400 4x5

・レンズ：210mm

・絞り：f45 1/2

・シャッター：1/15 秒

・キーゾーン：コンクリート（Ⅶ）

・ハイライト：コンクリート（Ⅶ）

・印画紙：Rembrant V G2